

## 【職務基礎力試験（BEST）についてのQ&A】

- Q1 職務能力試験<BEST-A>について「地方行政への関心と理解」に関する出題が行われるのであれば、公務員試験のための特別な勉強が必要となるのではないのでしょうか。

基礎的な内容ですので特別な勉強は必要ありません。  
例題集をご参考にしてください。

- Q2 職務能力試験<BEST-A>で示されるIRTスコアとはどのような得点なののでしょうか。

IRTスコアとは、項目反応理論（Item Response Theory：IRT）と呼ばれる統計的テスト理論に基づいたスコアです。

IRTを用いた既存の大規模試験の例としては、日本語能力試験、医療系大学間共用試験などが挙げられます。

IRTに基づいた共通の尺度（ものさし）で算出したスコアですので、ご利用いただいた問題集と同年度内の異なる試験日に異なる問題集を受験した者どうしても能力比較ができます。

共通の尺度（ものさし）は、受験者の能力が受験者集団の中で見てどの程度の高さであるかが分かるように設定しています。全国の受験者の平均的な能力が50で表示されます。



### Q3 職務能力試験<BEST-A>と従来のLightとは何が違うのですか。

BEST-Aは、公的部門の職員に求められる職務遂行能力を総合的に検証することとともに、利便性も追求した新しい試験です。

BEST-Aは、従来のLightの出題形式をベースとしつつ、蓄積された受験者の解答データの分析に基づいて、出題内容を特に公的部門の職員採用向けに厳選し、また、得点表示方式を見やすくするなど、ご利用団体の声やニーズに合わせた改善を加えていったことで、これまでの教養試験の枠には入らない試験となりました。

「短い試験時間で実施できる」、「出題内容の難易度がかなり基礎的である」、「特別な準備なく受験できる試験として使いやすい」点では従来のLight及び社会人基礎試験(EA)と共通していますので、BEST-Aは、これらの問題集をご利用くださっていた団体様にも、安心してをご利用いただけるものとなっています。

### Q4 職務適応性検査<BEST-P>について性格特性検査(J)、職場適応性検査(S)との違いは何ですか。

職務適応性検査<BEST-P>は、社会人基礎試験の「職務適応性検査(EB)」を、これまでに蓄積されたデータを利用して発展的に改訂した検査で、幅広い年齢層に受験していただけます。

検査の内容は、性格特性検査(J)、職場適応性検査(S)から厳選して構成されており、結果表示もコンパクトにまとめて見やすいものとなっています。

### Q5 職務能力試験<BEST-A>、職務適応性検査<BEST-P>はそれぞれ単独で利用できますか。

職務基礎力試験(BEST)は、公的部門の職員に求められる職務遂行能力と適性を総合的に把握する試験として、職務能力試験<BEST-A>と職務適応性検査<BEST-P>の2つのテストにより構成されたものです。

そのため基本的には、これらをセットでご利用いただくことをおすすめしております。

ただし、これまでLightをご利用くださっていた団体様も多いことから、職務能力試験<BEST-A>については、ご希望に応じて単独での提供も致します。

職務適応性検査<BEST-P>は単独でのご利用はできません。

